

1 育てたい心・主体・協働・挑戦



【Part8】4年生：毎日毎日・・・2ヶ月続けたスリッパをそろえること【主体・協働】

6月「最近、下校時にトイレのスリッパがきれいに揃っている」と児童の放送や、職員同士でも話をしていました。そこには秘密が！

スリッパをそろえてくれていたのは、なんと4年生。そのほとんどの児童のおかげでした。

4年生が、5月半ばから帰りの会后、児童玄関に行く間に毎日、中学年・下学年トイレを「主体的に」取り組んでくれたのです。はじめは何人かの児童が、どれが児童の間でどんどん広がり、ほとんどの児童がしてくれていたそうです。それを担任に言うわけではなく、「当たり前」にしてくれていたのです。多くの児童に「主体」「協働」の心が育ちました。

そのことを7月になって知った担任が校長に嬉しそうに知らせてくれ、昼休みの放送で校長から全校にお知らせしました。嬉しいことが、こうして伝わっていくというのも、大原小学校の自慢です。



大原小学校 Facebook



【Part9】のびのび・すくすく学級1年生【主体・協働】

早便のスクールバス登校後、バスの好きな児童3人が、遅便で到着するバスを毎朝、駐車場で出迎え、バスを降車する児童一人一人に「おはよう」の大きな元気な声であいさつ運動をしてくれました。「主体」「協働」の心が育っていますね。

朝、あいさつ運動に出遅れた校長に「時間ですよ」と声をかけてくれたり、バスの運転手さんに「忘れ物ありませんか？」「帰りもよろしくお願いします。」と頼もしい声かけを続けてくれたりしたことも、大原小学校の自慢です。

2 1学期お世話になりました。いよいよ夏休みです。地区懇談会で説明させていただきましたように、夏休みの生活と学習についてお力添えください。

1 こんな言葉かけ、わかりやすいですね。

主体の心を育てるためには、価値ある行動を認める、褒める言葉かけが大切です。学校・家庭・地域の周りの大人みんなで子どもの心を育てていきましょう。

「ついつい、何でも、「えらい!」「すごい!」「よくできた!」の声かけにかりがち・・・？」

そんなときは・・・

※「主体」の心を育てる具体的な言葉かけ例(裏面)

2 夏休みの課題が変わります。

大原小では、できるだけ授業では、こどもたちで学び合える「協働」の授業を目指し、家庭学習で「予習的な」内容を入れてきました。

夏休みは、これまでの「ドリル」型宿題から、実態に応じた「課題解決学習」へと課題を変えています。是非、子ども達が「課題」を見つけ、「課題を解決」する方法や内容での自主学習に挑戦してください。夏休み明けには、児童の学習を掲示します。

※「学ぶ力」を育てる自主学習イメージ例(裏面)